

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

## 1. 活動のテーマ

絵本を入りに好奇心を育てる

～絵本『つりぼり』をきっかけとした魚作りと釣り堀遊びの展開～

### <テーマの設定理由>

4月から子ども達に絵本を読み聞かせる中で、その月々の絵本を楽しみながら、遊びの中に取り入れている様子が見られた。その中で、継続的な活動ではなかったものの海賊ごっこを通して海の世界に親しみ、魚や船などへの興味を広げていた。そうした経験が子ども達の中に残っていたと考えられる中で、絵本『つりぼり』に出会い、「楽しそう」「やってみたい」といった声上がり、海や魚へのイメージが再び引き出された。さらに、発表会に向けた話し合いの中で海の場面が設定され、「魚はどうするか」と問いかけた際に「あの絵本の魚がいい」と子ども達から提案があった。こうした子ども達の興味や発想をもとに、魚作りから釣り堀遊びへとつながる活動を展開することで、主体的な表現や遊びの広がりが見られるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

- ・海賊ごっこ遊び
- ・12月、絵本『つりぼり』の読み聞かせ
- ・発表会に向けた話し合いの中で海の場面が設定され、魚作りへの関心が高まる
- ・魚作り（画用紙を中心とした制作活動）
- ・発表会に向けた背景づくり（ビニールに魚を描き、段ボールに貼る）
- ・発表会で魚や背景を使用し披露
- ・発表会后、制作物を活用して釣り堀遊びへと発展

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・発表会に向けた話し合いの中で「魚はどうするか」と問いかけると、「あの絵本の魚がいい」といった声上がり、絵本のイメージをもとに魚作りが始まった。
- ・制作では、図鑑や絵本を見ながら模様や色を工夫し、「ここはこうすると魚みたいになる」と友達同士で伝え合う姿が見られた。また、「ふくらませたい」と魚の体の中に緩衝材を詰めて立体的にしようとするなど、それぞれが試行錯誤しながら表現を楽しんでいた。
- ・発表会に向けては、ビニールに魚を描いて段ボールに貼り付けるなど、背景づくりにも取り組み、海の世界を表現しようとする姿が見られた。
- ・発表会後には、「これで釣りがしたい」といった声上がり、自分たちで作った魚や背景を活用しながら釣り堀遊びへと発展した。背景に使用した段ボールは囲いとして再利用され、遊びの場を自分たちで構成していく様子が見られた。遊びの中では、釣り方を工夫したり役割を決めたりしながら、友達とのやり取りを楽しむ姿が見られた。



#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・本活動では、過去の遊びの経験と絵本の世界が結びつくことで、制作、行事、遊びへと活動が広がっていく様子が見られた。継続的な活動でなくても、子ども達の中に蓄積された興味や経験が、新たなきっかけによって引き出されることを実感した。また、限られた素材の中でも、図鑑や絵本を手がかりに工夫しながら表現を深めていく姿や、友達と関わる中で考えを広げていく姿が見られ、主体的な学びにつながっていると感じた。さらに、発表会で使用した背景を釣り堀遊びへと活用するなど、一度の活動で終わらせるのではなく、環境を再構成しながら遊びへとつなげていく姿が見られたことは大きな気づきであった。
- ・保育者としては、問いかけや環境構成を通して子ども達の発想を引き出しながらも、その選択や展開は子ども達に委ねることの大切さを改めて感じた。今後も、子ども達の思いを出発点とした遊びがより豊かに広がるような関わりを大切にしていきたい。